



# おくたま

第210号

令和6年8月5日発行

# 町議会だより



原島 匠・書

編集・発行 奥多摩町議会 電話 0428-83-2302(直通) 奥多摩町ホームページ <https://www.town.okutama.tokyo.jp/>

## 奥多摩町議会議員管外視察研修



神津島村役場にて議員、職員と一緒に撮影

6月24日から25日まで、友好協定を結んでいる神津島村に行って来ました。



特別養護老人ホームを視察



津波避難施設を視察

### 第2回定例町議会

第2回定例会は、6月11日から6月18日までの、会期8日間にわたり開催されました。

### 町長提出議案と結果

次の議案が提出され、いずれも賛成多数により、原案のとおり承認、可決、同意されました。

#### 【専決処分】

- 議案第38号  
令和5年度奥多摩町一般会計補正予算(第6号)
- 議案第39号  
奥多摩町町税賦課徴収条例の一部を改正する条例
- 議案第40号  
奥多摩町国民健康保険税条例の一部を改正する条例

#### 【報 告】

- 報告第1号  
令和5年度奥多摩町一般会計予算繰越明許費繰越計算書について

#### 【条 例】

- 議案第41号  
奥多摩町指定居宅介護支援等の事業の人員及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例
- 議案第42号  
奥多摩町指定介護予防支援等の事業の人員及び運営並びに指定介護予防支援等に係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準を定める条例の一部を改正する条例
- 議案第43号  
奥多摩町体験農園施設の設置及び管理運営に関する条例の一部を改正する条例
- 議案第44号  
行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用

等に関する法律に基づく個人番号の利用及び特定個人情報提供に関する条例の一部を改正する条例

- 議案第45号

議会の議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例

#### 【契 約】

- 議案第46号  
川井松葉地内分譲地造成工事請負契約について

#### 【人 事】

- 議案第47号  
副町長の選任の同意を求めることについて  
井上 永一氏(再任)  
(氷川在住)

#### 【補正予算】

- 議案第48号  
令和6年度奥多摩町一般会計補正予算(第1号)

### 議員提出議案

次の議案が提出され全議員の賛成により可決されました。

- 議員提出議案第1号  
奥多摩町議会委員会条例の一部を改正する条例

### 賛否の分かれた議案

議席番号	議員名	議案番号等
10	原島 幸次	○
9	高橋 邦男	○
8	宮野 亨	○
7	小峰 陽一	※
6	澤本 幹男	○
5	大澤由香里	×
4	相田恵美子	×
3	森田 紀子	×
2	伊藤 英人	○
1	榎戸 雄一	○
		議案第44号

【賛成・・・○ 反対・・・× ※議長は採決に加わらないが賛否同数の場合は議長が裁決します。】

# 一般質問

令和6年第2回定例会では、9名の議員が一般質問を行いました。ここでは、紙面の都合により、内容を要約して質問者順に掲載しています。質問・答弁の全文は、8月中旬頃より、ホームページで閲覧できます。(町ホームページ～町議会～会議記録(結果))

町ホームページは、スマートフォン・タブレット端末等でもご覧いただけます。  
また、町内各図書館でも会議録をご覧いただけます。



QRコード

- |   |  |
|---|--|
| (1) <u>6番 澤本 幹男議員(4ページ)</u><br>①消滅可能性自治体に該当となったこと<br>について<br>②郷土芸能の存続について   | (6) <u>9番 高橋 邦男議員(6ページ)</u><br>①小河内ダムの湖面利用について<br>②高齢者の健康・居場所づくりについて           |
| (2) <u>8番 宮野 亨 議員(4ページ)</u><br>①地震など災害時のトイレについて   | (7) <u>1番 榎戸 雄一議員(7ページ)</u><br>①健康促進事業について                                     |
| (3) <u>10番 原島 幸次議員(5ページ)</u><br>①長畑生活館の建て替えについて   | (8) <u>3番 森田 紀子議員(7ページ)</u><br>①高齢者の元気対策について<br>②ハラスメント対策について                  |
| (4) <u>2番 伊藤 英人議員(5ページ)</u><br>①ブロック塀改修補助の早期実施を<br>②防災無線の活用による 観光産業分野<br>での取組と子どもたちの見守りを<br>③奥多摩小屋跡地について<br>④奥多摩町のユネスコエコパーク登録に<br>ついて | (9) <u>5番 大澤由香里議員(8ページ)</u><br>①集落支援員制度について<br>②高齢者の補聴器補助について<br>③地方自治法改正案について |
| (5) <u>4番 相田恵美子議員(6ページ)</u><br>①子ども議会について<br>②多機能型地域活性化拠点「AUBA(アウ<br>バ)」について  |  |



自民党清新会  
さわもと みきお 議員  
澤本 幹

**問**  
① 消滅可能性自治体に該当となったことについて  
② 郷土芸能の存続について

**答**  
① 引き続き少子化・定住化対策を推進する  
② 補助限度額の引上げ・補助率見直しを検討

**質問1**民間有識者らで作る人口戦略会議が公表した「消滅可能性自治体」に奥多摩町が該当している。小菅村・丹波山村・日の出町は今回脱却した。若者定住推進課を作りこの十年間強力に推進してきたが、現実には脱却できていない。「消滅可能性自治体」に該当となったことをどの様に受け止め、今後の対策は。

**質問2**奥多摩郷土芸能祭が9月29日に開催され各地区の獅子舞等が一堂に会して披露される。この獅子舞保存会等は会員の自主参加によって成り立っている。しかし獅子舞保存会等の団体が近年少子高齢化により将来存続の危機にあり、練習や研修、衣装等のクリーニング代等の金額負担が大変になってきている。心の拠り所であり子供達の郷土愛を育むためにも、町として郷土芸能を存続させるためにどう支援をしていくのか。

町長1奥多摩町が「消滅可能性自治体」に再び該当した。この分析では20歳から39歳の女性人口が半減するという一面的な指標をもって線引きし消滅可能性がある自治体として公表している。これまでの地域の努力や取り組みに水を差すものである。現在、民間事業者や大学との連携で様々な取り組みを行い、関係人口も増えている。引き続き職員と一丸となって少子化・定住化対策を推進していく。教育長2町の郷土芸能はユネスコ無形文化遺産登録の鹿島踊り、国指定重要無形民俗文化財指定の川野の車人形、都や町指定の獅子舞等長い歴史や伝統があり地域で大切に伝統を継承されている。町は無形民俗文化財の保存に必要な道具等の補修整備を予算範囲内で補助しているが、郷土芸能を継承するため獅子頭の修復や衣装等の新調等、補助限度額の引上げや補助率見直しを前向きに検討する。



自民党  
あきら の 議員  
宮野 亨

**問**  
地震など災害時のトイレについて

**答**  
東京都をはじめとする、関係機関と連携し、災害への備えを進めていく

**質問1**避難所でのプライバシーの確保は。  
**質問2**災害時のトイレ対策は。  
**質問3**トイレトレーラーの導入は。  
**質問4**給水車・給水タンクなどの給水確保については。

**町長1**災害時、3日以上以上の避難生活が必要となった避難者のため、全6か所の中長期避難所の設備等をより充実させることにより、安全で健康的な生活が継続できるよう計画的に整備を進め、プライバシー確保は、屋内用テント式パーテーションの導入を進めている。昨年度は奥多摩中学校用に27張を整備。今年度は、古里小学校、福祉会館及び水と緑のふれあい館用に各15張、計45張を整備する予定。来年度は、旧日原小学校及び旧小河内小学校用に各15張、計30張を整備する計画。  
**町長2**町内各所の防災備蓄倉庫に簡易トイレを264個配備している。今年度から、自動ラップ式簡易トイレの

導入を図る。これは、バッテリー使用による自動熱圧着によって排泄物を一回毎にラップ(個包装)して密封するポータブルトイレで、直接手で触れることなく臭いや微生物(細菌)を密封できるもので、より安全で衛生的である。  
**町長3**費用面等含め課題が多く導入は難しい。他市町村の状況を見ながら、今後の方向性を探る。  
**町長4**災害時を想定した給水確保は、東京都水道局により、水道管の耐震継ぎ手化工事の推進や避難所における応急給水栓の設置が進められている。議員の言っているとおり、災害はいつ、どこで、どのような形で発生するかわからない。今の時代、想定外という言葉は通用しなくなってきた。町は、住民の安全・安心を確保していくため、東京都をはじめとする関係機関と連携し、災害への備えを進めていく。



自民党清新会  
はらしま ゆきつぐ  
原島 幸次議員

問 長畑生活館の建て替えについて

答 施設の建設年度や老朽化、バリアフリー化の状況等を考慮しながら検討していく

質問 長畑生活館は昭和50年に完成し現在まで築50年が経過しており各所に老朽化が進んでいる。長畑生活館は地域の高い場所に位置し、アクセスは階段のみであり、足腰の弱い高齢者には行くだけで大変で車椅子での利用は出来ない現状である。自治会の総会、健康相談、各種行事等に高齢者が出席できず地域コミュニケーションの希薄化につながっている。生活館は災害時の避難所になっているが、建物の西側は急峻な地形になっており町の防災マップでは、土砂災害特別警戒区域内に指定されて利用することはできない。高齢者や障害者及び地域住民の避難所としての安心・安全を確保するためには、現在の場合以外に安全で地域の誰もが行きやすい場所に生活館を建て替えるのが喫緊の課題と考えるが町の考えは。

町長 長畑生活館は、奥多摩町土砂災害ハザードマップにおいて、「土砂災害特別警戒区域（レッドゾーン）」内に位置しており、高台にあり、生活館へいくには階段のみであるため、高齢者や身体の不自由な方などにとって利用しやすい施設とは言いがたい状況にあることも認識している。生活館の建て替えについて、長畑自治会長からも要望書が提出されているが、町内の生活館等ほとんどが、土砂災害警戒区域であるイエローゾーンもしくはレッドゾーンに含まれており、町の急峻な地形から、用地の確保を含め困難な状況である。生活館等の建て替え及び改修等には、多くの財源確保を図る必要があることから、施設の建設年度や老朽化、バリアフリー化の状況等を考慮しながら、検討していく。



どんぐり  
いとう ひでと  
伊藤 英人議員

問 奥多摩町のユネスコエコパーク登録について

答 近隣市町村とも協議しながら慎重に検討していく

質問 ユネスコ（国際連合教育科学文化機関）が認定する人と自然の共生を目指すモデル地域を、日本ではユネスコエコパークとよぶ。秩父多摩甲斐国立公園とその周囲を範囲とし、「甲武信ユネスコエコパーク」が令和元年に認定された。奥多摩町は東京都で唯一エコパークに含まれる自治体だが、町の指定区域は限定的で、ユネスコが想定する機能や効果は十分に発揮されない。奥多摩町の指定が限定的なままでは、国立公園に含まれる近隣市町村（青梅市、あきる野市、日の出町、檜原村）のエコパーク指定が進まず、貴重な資源の保全など地域間・多摩川流域の連携に支障を生みかねない。

町長 ①平成28年度に甲武信ユネスコエコパーク登録推進協議会が設置され、山梨、埼玉、長野県の10市町村が加盟した。この前段として登録推進協議会設立準備会への参加依頼が奥多摩町にもあったが、時間が限られ十分に検討できないこと、加盟のメリットが見出せないことなどから、参加を見送った。その後、奥多摩エリアの一部を地域設定したいと依頼があり、現在の設定となった。

②本年2月、副町長、関係課長と山梨県担当者が東京都環境局職員の間で情報交換を行った。町の方針は未定で、加入や活動の予定はない。

③近隣市町村にも影響を及ぼすこと、協議会の設置や審査手続きなどに時間と労力を費やすことから、町だけで判断できる状況でなく、近隣市町村と協議しながら慎重に検討していく。

③町全域が指定されるよう推進は。

②甲武信ユネスコエコパーク推進協議会への加入や活動の予定は。

①奥多摩町のエコパークの登録、範囲の限定について、町の考えは。



ガジュマルの会  
あいだえみこ  
相田恵美子議員

問  
多機能型地域活性化拠点「AUBA(アウバ)」について

答  
住民や団体の皆さまの協力を得て「みんなでつくる」拠点を目指す

質問 町は多摩大学と令和4年に包括連携協定を締結した。

奥多摩駅近くの空き店舗「旧甲州屋」を活用し多機能型地域活性化拠点としての活動が開始された。3月に行われたオープニングセレモニーではAUBA(アウバ)と名称の発表があり、広報おくとま4月号の表紙にもその様子が掲載「学生を中心に地域の皆さんや奥多摩町ファンの方との交流、情報発信・交換を行い様々な方々が会う場所を創出することを目指す」と町民に周知された。町の活性化に寄与し町民を優先した活動が望まれる。①現在の進捗状況は。

②4月に内装工事が行われていたが、工事は予備費での支出である、その経緯は。

③中間支援組織の役割を担う位置づけとなり得るか。

町長 ①7月に営業開始を計画しているカフェ事業の準備に学生を中

心に取り組んでいる。今後の展開としては、アートフェスティバル事業と連携し町の魅力を発信する拠点としての役割も検討。

②今年2月に多摩大学側からカフェ事業の提案がありカフェを実施するには新たにシンクと手洗い場の設置が必要であることが判明、令和5年度予算では改修工事が終了していた事もあり追加工事は実施できなかった。大学側から保健所の手続きに時間がかかることから町に対し早期の改修要望があり、町としても地域住民や事業者皆さまとの関係性を構築していくことが急務との判断から予備費を活用した。

③当事業は始まったばかりであり、試行錯誤の中で様々な検討を進めている。将来的には中間支援組織の役割を担う団体となり得る可能性は否定しないが現時点では考えはない。



山なみ会  
たかはし くに  
高橋 邦男議員

問  
小河内ダムの湖面利用について

答  
小河内ダムの湖面利用の実現に向け、引き続き努力していく

質問 小河内ダムの湖面利用については、議会の一般質問において再三質問しているが、その際町からは、水質保全上の問題や都市用水として利用している他県のダムが湖面を開放していないなどの理由から、東京都からの許可が得られないという答弁であった。しかし、同様の群馬県の八ッ場(やんば)ダムでは、観光船を運航し水上遊覧をしているようである。これが本当ならば、水質保全が担保された上での小河内ダムの湖面利用は何ら問題ないと思う。小河内地域の活性化にも繋がり、奥多摩観光の目玉の一つになり得ると考えている。例えば、「山のふるさと村」周辺に限り、動力船でないカヌーやカヤックでの湖面利用を都水道局へ要望できないものか。湖面から眺める奥多摩の山々も、きつと素晴らしい姿を見せてくれるはずである。町の考えを問う。

町長 湖面利用については、町としても長年にわたり要望していたが、都水道局が管理する水道専用ダムであり、都民の貴重な水がめのため、汚染要因になりうる湖面利用については、水質保全の面から困難であるという一貫した回答となっている。また、河川、自然湖等とは異なり、ダム湖での湖面利用にあたっては、水質を汚染する可能性のある行為は使用許可が必要な場合があることとされ、特に「水道専用ダム」である小河内ダムでは、許可を得ることで自体が極めて困難という状況である。今回、議員からは令和2年に完成した八ッ場ダムの観光船の水上遊覧を例に湖面利用の可能性を示されたが、湖面利用の実現については、東京都の方針に変わりはなく、困難な状況であるが、町の長年の悲願である小河内ダムの湖面利用の実現に向け、引き続き努力していく。



自民党清新会  
えのきど ゆういち  
榎戸 雄一議員

問 健康促進事業について

答 貯筋(ちよきん)通帳を参考に健康意識の向上につなげていく

**質問** 奥多摩町は国や東京都を大きく上回るスピードで少子高齢化が進行し、医療費や介護費の増加が予想される。次世代を担う若年世代の減少も重なり地域生活における負担の増大が推測される。健康で住み慣れた地域のなかで暮らしていくために健康寿命を伸ばすことは重要である。町でも様々な健康増進事業を行っているが、健康長寿の基本のひとつはウォーキングである。森林を歩くことがより効果的であることも科学的に証明され、森林セラピー事業も全国的に展開されている。奥多摩町は健康寿命を伸ばすことに最適な環境であることを再認識し、ウォーキングの健康促進事業を望みたいと考える。具体的には他の行政でも実績のある「貯筋通帳」事業である。楽しく参加でき健康意識の向上により健康寿命を伸ばす「貯筋通帳」事業について町の所見を伺う。

**町長** 当町における健康促進事業の1点目は「元氣アップおくとまま事業」で町内自治会を対象に講話や保健指導など1年を通して実施している。ここではウォーキング等の行動のサポートや健康教育を実施している。2点目は「ヘルシー体操事業」で月に3〜4回福祉会館または文化会館等で実施している。3点目は「森林セラピー健康づくり事業」をおくとまま地域振興財団に委託し、ゆつくり自然を味わう健康づくり、森林を歩くガイドウォークを実施している。平成26年から元氣アップを日本各地に設定したウォーキング事業を行っている。コロナ禍前は目標達成者に記念品を渡していたが現在は事業を縮小している。他自治体の貯筋通帳を参考により工夫し楽しく健康寿命を伸ばすための健康意識の向上につなげていく。



宇宙会  
もりたのりこ  
森 紀子議員

問 高齢者の元氣対策について

答 元氣対策の効果が出ている

**質問** 奥多摩町の高齢者率が52%を超え、健康年齢の引き上げが急務となっている。令和4年4月「にっこ古里」が開所し、現在では多くの方が利用され運動習慣の拠点となっている。更には、元氣アップおくとまま事業等他にも数々の事業や住民主体のサークルがあり、多くの皆様が体力づくりに取り組んでいる。令和6年5月には「来るつくく」が鳩の巣で開所され、更なる事業の展開が見込まれている。①奥多摩町で行われてきた高齢者の元氣対策の成果としての数字の変化は。②高齢者自身の生き甲斐、社会貢献、年相応に自立できる地域作り等、病院事業にも言及した具体的な対策は。③高齢者の買い物支援が、町内の医療機関への通院送迎サービス実施時や奥多摩病院でのリハビリ送迎時にできるのか。

**町長** ①成果を数字で示すのは困難だが、一例として介護保険の被保険者数に対して、要介護認定を受けている認定者数を示す「認定率」が、平成30年度の20%をピークに令和4年度末では16.7%と約3%減少している。この数値からも介護予防、元氣対策の効果が出ていると認識している。②鳩ノ巣駅近くに開所した「来るつくく」では、地域包括支援センターの職員と、認知症サポーターが、スタッフとして対応しており、開所翌週には奥多摩病院理学療法士も参加し、利用者に気になる点があった際の情報交換等、今後の奥多摩病院との連携を確認。③高齢者外出支援サービス事業は、その日の利用状況により、サービス利用中に買い物もできるよう配慮している。奥多摩病院でのリハビリ送迎時は利用者自宅と事業者間の送迎を原則としていること、また、現状のリハビリ体制では買い物等の支援を行うことは困難である。



日本共産党  
おおさわ ゆかり 議員  
大澤由香里

問

①集落支援員制度について②高齢者の補聴器補助について③地方自治法改正案について

答

①具体的な検討を進める②制度を整備していく③全国知事会と同じ考えである

質問1 町長は選挙公約で、移住・定住対策、高齢者の生活サポートの観点で集落支援員制度の活用を打ち出された。大きな前進として受け止める。どのような形で導入を考えるか。

質問2 東京都の補助制度開始を機に助成制度の導入を進める自治体が増えている。高齢者の聴こえの重要性についての認識と導入の考えは。

質問3 日本国憲法にもとづく地方自治・平和主義・立憲主義を壊し、自治体を国に従属する立場に置く地方自治法改定案に対し、一地方自治体として反対の声を上げるべきだと考えるが、町長の見解は。

町長1 高齢者に対する様々な事業について、関係する団体等の意見も伺いながら、町全体へ、その取り組みが展開していきけるよう、また、地域に密着した取り組みを行い、高齢者の日常生活での困りごとや支援のきっかけを拾い上げ、町と自治会とのつなぎ役も兼ねることも視野

に入れ、集落支援員制度の導入に取り組む。まずは、現状の把握や課題を整理し、地域の意向や町の実情に合った内容となるよう具体的な検討を進める。町長2 高齢化率が50%を超える現状から加齢性難聴に対する支援は必要であると認識している。実施に向け、町での補助

が必要となる方の年齢制限や所得制限のあり方や、町内に補聴器相談医が在籍する医療機関がないことから、近隣市町村の医療機関への協力依頼等必要な調整事項を整理し、他市町村の補助制度も参考に、制度を整備していく。町長3 全国知事会

は、指示権について、国と地方の対等な関係が損なわれる恐れもあるとして、事前に十分な協議・調整を行う運用の明確化が図られるよう政府に要請した。町は全国知事会と同じ考えであり、ある意味、全国知事会が地方を代表して国に申し入

れを行っている認識している。

次回9月第3回定例会日程(予定)

議会運営委員会 8月29日(木)  
本 会 議 9月 3日(火)、4日(水)、6日(金)、13日(金)  
※一般質問は6日(金)  
決算特別委員会 9月10日(火)、11日(水)  
陳情受付期間 8月16日(金)までに直接お持ちください。  
会議の予定は変更になる場合があります。詳細は、下記までお問い合わせください。

問い合わせ 議会事務局 ☎0428(83)2302(直通)

議会だよりのご感想をお寄せください。また、議会に対するご意見ご要望等がありましたら、お気軽に議会事務局までお知らせください。

- ① 提出は、9月16日までに受理したものを、9月定例会で審議します。その日の午後5時までに提出してください。
- ② 提出は、9月16日までに受理したものを、9月定例会で審議します。その日の午後5時までに提出してください。
- ③ 提出は、9月16日までに受理したものを、9月定例会で審議します。その日の午後5時までに提出してください。
- ④ 提出は、9月16日までに受理したものを、9月定例会で審議します。その日の午後5時までに提出してください。

議 会 日 誌

5月

- 10日 東京都町村議会議長会第1回定期総会・議員講演会・意見交換会
- 15日 奥多摩町高齢者クラブ連合会定期総会
- 16日 奥多摩町身体障害者福祉協会総会
- 21日 町村議会議長・副議長研修会
- 22日 議会全員協議会
- 23日 例月出納検査・学校給食センター会計決算監査
- 24日 西多摩地区議長会定例会議・勉強会・会計監査・懇親会
- 25日 奥多摩郷土芸能保存団体協議会定期総会
- 28日 奥多摩中学校体育大会
- 28日 第62回三多摩上下水及び道路建設促進協議会・理事会・総会
- 29日 東京都市町村議会議員公務災害補償等組合議会臨時会
- 30日 議会運営委員会
- 31日 東京都三多摩地区消防運営協議会通常総会
- 特定非営利活動法人タンポポの会定期総会

6月

- 3日 総務文教・経済厚生両常任委員会合同管外視察(東京消防庁関連施設視察)
- 5日 (二社)奥多摩観光協会第12回定時社員総会・懇親会
- 7日 奥多摩町正副消防団長OB会懇親会
- 9日 第3回奥多摩スポーツフェスティバル
- 11日 町議会第2回定例会
- 13日 町議会第2回定例会
- 18日 町議会第2回定例会
- 20日 例月出納検査
- 21日 (公社)奥多摩町シルバー人材センター定時総会
- 24・25日 行政視察研修(神津島村議会)
- 26日 西秋川衛生組合管理運営及び環境保全に関する各自治会協議会の合同開催
- 27日 奥多摩町防衛協会定期総会・懇親会
- 28日 西多摩郡監査委員連合会定期総会・懇親会
- 3日 三か町村議会議員広域連絡協議会定期総会・研修会・懇親会
- 4日 奥多摩町長期総合計画審議会
- 6日 春の交通功労者等表彰式
- 10日 議会だより編集委員会

7月

- 3日 三か町村議会議員広域連絡協議会定期総会・研修会・懇親会

編 集 後 記

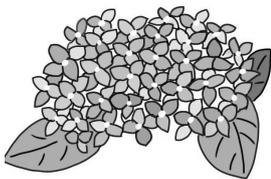
ご近所から頂いた枝を挿したアジサイが大きくなり、この梅雨時に薄紫のたくましい花を咲かせています。奥多摩に移住した頃を思い出させるアジサイの花です。今議会の会期中に日原の崖崩れが起こり、幸いけが人もなく早めに復旧されましたが、油断できない状況が懸念されます。能登半島地震から始まった今年の干支は『辰』。地震の『震』は『辰』の上に『雨』と書き、自然災害が示唆されるかのようにです。他人ごとではないことを意識し、備えあれば憂いなしのごとく、物心共に災害に備えたいものです。

さて、師岡町政二期目がスタートしました。新庁舎建設を含め、町はこれまでになく新たな時代を迎えることになりました。六月議会は傍聴者が通常より多く、特に午前中は女性の傍聴者が大半を占め、住民意識の高さを感じられました。朝晩は川からの涼風が気持ちよい奥多摩町ですが、日中は暑さ厳しく今夏も猛暑の予報であります。どうぞ、皆々様ご自愛ください。

相田恵美子 記

榎戸 雄一 伊藤 英人

澤本 幹男 高橋 邦男



# 管外視察報告

6月24・25日、議員10名、議会事務局職員2名、副町長の計13名で、管外視察研修を行いました。宿泊をとまなう視察研修の実施は令和元年以来です。

訪問先は東京都神津島村で、村とは太平洋戦争末期に集団疎開が行われた縁により平成29年に友好交流協定を結んでおります。



24日午前中に神津島空港に到着し、各地の視察と神津島村議員・職員との意見交換会、懇親会を行い、翌25日には悪天候による飛行機欠航のため、午後の船便での帰路と予定を変え、村内視察を続けました。帰路でも船の機体トラブルにみまわれたものの、夜遅く無事帰着いたしました。

村議員・職員との意見交換会では、「離島留学の成果と課題」「高齢者・障がい者の居場所づくりの取組」「医療体制の現状と課題」「観光振興」の4テーマについて質疑しました。

村内施設の視察では、離島留学

生宿舎、地域活動支援センター、特別養護老人ホーム、遊歩道や展望台などの観光施設、図書館、資料館、津波避難施設を見学いたしました。  
奥多摩町議会では、今回の管外視察研修の内容を今後の町政に活かしてまいります。

地域活動支援センター作業所



離島留学生宿舎



7月3日 三か町村議会議員広域連絡協議会でドローン活用の研修会を開催。(小菅村) ※手前がドローン機



6月3日 東京消防庁航空隊多摩航空センターを視察